スイスでノーベル平和賞受賞者と対談　　7月18日

スイス・コーのIC世界大会に出席しています。第二次世界大戦後のドイツとフランスの和解や日本の国際社会復帰に貢献した会場です。 7月18日の記念討論会では、2022年ノーベル平和賞を受賞したロシアの人権団体「メモリアル」創設者兼元理事長のElena Zhemkovaさんが基調講演を行いました。そして コフィ・アナン（元国連事務総長）財団理事長のCorinne Momal-Vanianさんと元スイスの外交官で各国で紛争解決、和解、人権問題、戦争犯罪などを担当してきたMô Bleekerさんが討論を行いました。 それに先立つ開会式では、Gerald Pillay国際IC評議会会長（Liverpool Hope大学前学長）とJacqueline Coté国際ICスイス協会会長（元ジュネーブ国際・開発研究所理事）の主催者挨拶に続き、Rea Gehringスイス外務省平和人権局長が祝辞を述べました。 私は、その後、Elena Zhemkovaさんと懇談をさせていただきました。優しい話し方をする女性ですが、勇気と行動力のかたまりの筋金入りの闘士です。

IC世界フォーラムで広島碑文を報告　　7月24日

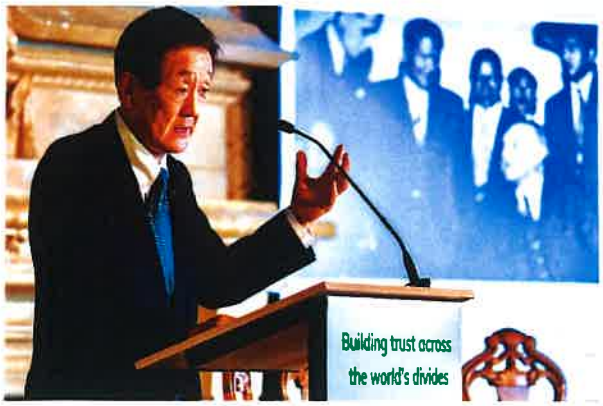
7月24日スイス：コーのIC世界フォーラム「民主主義における信頼と誠実さ」の第一セッションでスピーチしました。ニジェール共和国のHadizatou Yacouba Ousseini鉱山大臣とコフィ・アナン（元国連事務総長）財団のDeclan O'Brien選挙・民主主義部長と一緒でした。

私は広島市の原爆記念碑の碑文「安らかに眠って下さい。過ちは繰り返しませぬから」が、1950年に当時の浜井信三市長が、ここコーの会議に参加したことが契機であったことを報告しました。戦後初めて海外渡航を許された国会議員７名を含む72名の一行が、コーでドイツとフランスの劇的な和解の現場を見、その後イタリアでローマ法王、ドイツ・アデナウアー首相、フランス・シューマン外相他と会談し、最終的に米国議会やアーリントンの無名戦士の墓地を訪問したことがこの碑文を決定したという歴史的事実です。

そして、５月の広島サミット前にこの背景を岸田首相に説明しました。岸田首相がＧ７の首脳に碑文などの意味を説明したことが、平和資料館でのアメリカのバイデン大統領が記帳した次の言葉に反映されていると言われています。「この資料館で語られる物語が、平和な未来を築くことへの私たち全員の義務を思い出させてくれますように。世界から核兵器を最終的に、そして、永久になくせる日に向けて、共に進んでいきましょう。信念を貫きましょう！」

第二は、「過ちは繰り返しませぬから」の英訳が“We Shall Not Repeat The Evil”と記載されていますが、「過ち」はevilではなくmistakeが原文であることをG7首脳に伝えるという提案を岸田首相に伝えました。Evilという言葉は、単なる善悪の悪という以上に、悪魔、強い悪意などを意味します。しかも日本語には主語が無いのに対し、英語ではWeという主語が入っているので、核保有国を含む首脳達が悪魔とみなされているとの誤解すら与えかねません。ロシアのプーチン大統領がウクライナへの侵略を「西側の悪との戦い」と主張していることからもG7がEvilとレッテルを貼られる可能性も回避すべきであると説明しました。松井一実広島市長もmistakeが原文に近いとの認識を持っていました。そして、5月19日に松井市長がG7首脳に碑文の説明をした際に通訳者がmistakeと訳したことを報告しました。この訳に関してアメリカやウクライナなどの参加者から感謝が表面されました。

会場には首脳が広島に集まったＧ７諸国、インドやウクライナなどの人々が参加しており、1950年にコーで起きたストーリーが本年広島で反映されたことに対して大きな反響がありました。



ウクライナとロシアの友人と再会　　7月26日

スイス・コーの国際IC世界大会で、ウクライナとロシアの友人たちと再会しました。 昨年、日本のIC交流会でZOOMで講演をしてくれたアンジェラ・スターヴォイトワさん（写真１）は、ロシアで生まれたロシアの血を持つウクライナ人です。クリミアで育ち、ロシアによるクリミア併合後は、首都のキーウに移住しました。両親はロシア在住で、股裂き状態の中、命がけの人道支援活動を行っています。

同じく日本のIC交流会でZOOM講演をしてくれたモスクワの女性教師エレナさん（写真２）は、二人のロシア人参加者の一人です。昨年以下の声明を発表しました。「ロシア人はウクライナ人に謝罪しなければなりません。謝罪は、全体主義組織を構築した役割を認識している人々から発せられるかもしれません。暴力と不正を無視し、小さな嘘に目をつぶり、日常の腐敗に加わり、ますます悪のメカニズムの一部になっていることに気づくでしょう。」

その後スイスやフィンランドの会議でウクライナ人に謝罪した勇気ある人です。その彼女に対してすら、ウクライナ人からは冷たい目が注がれましたが、けなげに頑張っている姿に心が打たれました。会議ではウクライナ人による体験発表が行われました。（写真３，４）

コー円卓会議に出席　　7月26日コー日米欧経済人円卓会議（Caux Round Table, CRT）にオブザーバー参加しました。

1985年に国際MRA日本協会（国際ＩＣ日本協会の前身）専務理事をしていた私はオランダのフィリップス社フレデリック・フィリップス元会長から書簡を受け取りました。日本の欧米に対する電機製品や自動車などのいわゆる集中豪雨的輸出による、貿易戦争が激化している。その回避のために日米欧の経済人が本音で語りあえる円卓会議（CRT）をスイスのコーのMRA会議場で開催しようとの要請でした。私はその創設に関わりました。その結果、ヨーロッパからオリビエ・ジスカールデスタン（ヨーロッパ経営大学院副理事長）、アメリカからオーウェン・バトラー（P&G 会長）、ウィンストン・ウオーレン（メドトロニック会長）、日本から賀来龍三郎キヤノン社長、山下俊彦松下電器相談役、住友義輝住友電工顧問などが参加してスタートしました。1994年には「企業の行動指針」(Principles for Business)をまとめ、英国のファイナンシャル・タイムズは「日米欧の経営者共同による初の行動規範」と評価しました。

その後もＣＲＴ日本委員会（矢野弘典会長）は企業倫理や、人権、紛争地域における企業進出などの支援活動などの分野で内外から高い評価を得ています。

久しぶりにコーで開催された今回は、ＣＲＴと国際ＩＣ経済産業部会の共催という形で開催され、国際ＩＣ会議の参加者も参加しました。歓迎夕食会では、アメリカのステークホルダー原則の推進役であったボブ・マクレガー氏がＣＲＴの理念について説明しました。彼は当時、キヤノンの賀来会長からもらったメガネ吹きを大切に使っていると懐かしそうに話してくれました。（写真２）

その後、ＣＲＴ設立の経緯やその後の活動について私が報告するという要請を受けました。（写真３）今回は、経済人に加えて、カシット元タイ国外務大臣（写真４）や、サム・ランシー元カンボジア財務大臣なども参加しました。日本からは国学院大学の東郷茂彦先生（写真５）が参加しました。

チャーチル首相やトルーマン大統領に贈呈された広島の十字架　8月3日

イギリスの国際IC協会のセンターを訪問しました。そこで1950年に浜井信三広島市長が各国首脳に贈呈した12個の十字架の現物の一つが陳列されていました。

浜井市長がトルーマン大統領、チャーチル首相、ローマ法王にまで贈呈していたという事実がわかりました。

こうした歴訪を経て、「安らかに眠って下さい。過ちは繰り返しませぬから」という原爆記念碑の碑文が作成されたことを実感しました。

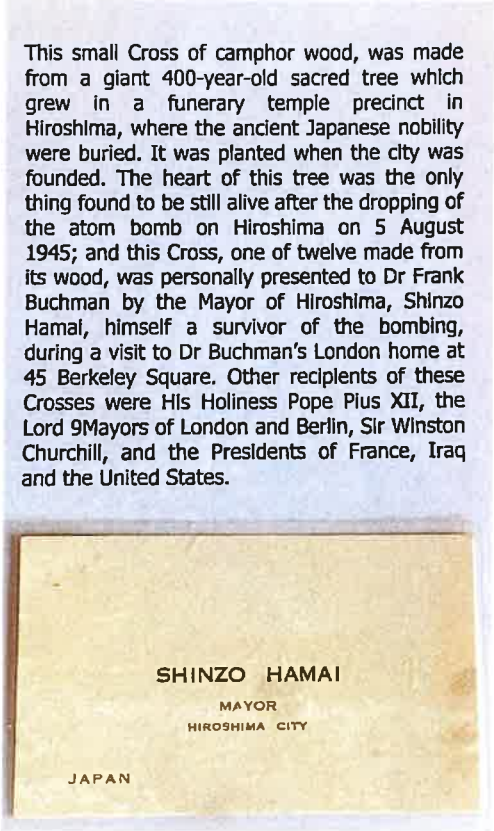
十字架の後ろに、浜井市長の名刺と説明版があり、以下のように書かれています。

「この小さな十字架は、広島市仏教寺院の境内の 400 年の樹齢の巨大な神聖な楠から製作された。この寺院には古代からの高貴な方々が祭られ、広島市が設立された際にその苗木が植えられたものである。この樹木の中心部だけが 1945 年８月６日に原爆が投下された後に唯一生き残った。この十字架は、この楠から製作された12個の十字架の一つで、被爆した生存者の一人でもある浜井信三広島市長が国際MRA(現在の国際IC)の創始者フランク・ブックマン博士をロンドンの45バークレースクエアーの自宅を訪問して、直接博士に贈呈したものである。これらの十字架の他の受領者はローマ法王ピウス 12 世、ロンドン並びにベルリン市長、ウィンストン・チャーチル首相、フランスのヴァンサン・オリオール大統領、イラクの大統領、アメリカのハリー・トルーマン大統領である。」

歴史の現場に立ち会ったようで深い感動を覚えました。

（翻訳注）

１　英語の８月５日を８月６日と訂正。

２　ローマ法王、フランスとアメリカ大統領名を記載。

３　イラク大統領とあるが、当時イラクには大統領は存在せず、ファイサル国王かタウフィーク・アッ＝スワイディー首相と思われる。